

富士市SDGsの課題と取り組み



13 気候変動に
具体的な対策を



目標 13

気候変動とその影響に立ち向かうため、
緊急対策を取る

富士市の課題

現在の地球は、温暖化(気候変動)がどんどん進んでいます。その主な原因は、地中に埋まっていた石炭・石油・天然ガスなどをエネルギー源として燃やすことにより二酸化炭素が排出されてきたことです。今、二酸化炭素などの温室効果ガスの排出を2030年には半分に、2050年には実質ゼロにすることが世界的な目標となっています。富士市は、「産業都市」であり、昔から製紙や輸送機械、化学工業製品など、日本経済を支えてきた産業が多く集まっています。しかし一方、重油やガス等の化石燃料の消費により、二酸化炭素を大量に排出してきたことも事実です。富士市がこれからも産業都市であるためには、それぞれの工場が二酸化炭素等をなるべく排出しないようになっていく必要があります。製品をこれまで以上にエネルギー効率よく生産し(省エネ)、使用するエネルギーは二酸化炭素を排出しない再生可能エネルギー(太陽光、風力、バイオマスなど)に切り替えていくことが課題になります。このような課題に取り組むことによって、富士市は「持続可能な新しい産業都市」に発展していかなければならないと思います。



第3回富士山百景写真コンテスト
エリア賞「工業都市」



富士山と森林

富士市の取り組み

現在の富士市は、再生可能エネルギーのひとつである「バイオマス発電」が「日本一」という実績があります。この木質バイオマス(木は成長する過程で二酸化炭素を吸収することで大きくなっているため、それを燃やしても新たな二酸化炭素を排出することにならないため、再生可能エネルギーとされている)を活用した発電は、これまで富士市の地元の産業として栄えてきた製紙業で培われてきたボイラー技術との相性がいいものです。事実、現在、製紙工場だった施設で大規模なバイオマス発電が行われています。また、富士山南麓や愛鷹山麓には広大な森林が広がっており、これを保全し、森林管理を続けていくことにより二酸化炭素を吸収させることも重要です。健全な森林は二酸化炭素の吸収源となりますので、これを保全しながら、そこから持続的に利用可能なバイオマス(林地残材や製材廃材等)を確保していくことも、気候変動対策としては大事な取り組みです。

富士市SDGsポータルサイトでもっと詳しく掲載中



静岡大学地域創造学環 教授

水谷 洋一

現在は、富士市環境審議会の副会長、富士市全体の地球温暖化対策の実行計画を作成する部会の部会長に就任しています。

研究分野:環境政策、環境経済学

所属学会:環境経済・政策学会、日本環境会議



富士山とともに 輝く未来を拓くまち
SDGs 未来都市 富士市

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS